施されたら施し返す！恩返しだ～！！

コロナ禍でもがんばる特集号

立候補者のポスターを眺める都留高生徒

都留高ニュース
発行所
山梨県立
都留高等学校
大月市
大月２丁目11-20
編集
都留高新聞同好会

来年は倍返しだ～！！

日本ではコロナ禍の中、８年ぶりに首相が変わりました。都留高校でも10月2日に新しい生徒会役員を決める生徒会選挙が行われます。都留高生のみなさん、都留高校の未来を決める大事な選挙です。真摯な態度で選挙に臨みましょう。

新年度の生徒会役員選挙に立候補された生徒会長、副会長候補３名にアンケート調査しました。

1、立候補した理由は。
2、都留高の良いところは。また、どのような学校にしたいのか。
3、最後に一言。

◇会長候補

真船彩華さん（2年5組）

1、1年生の時から生徒会役員として活動してきました。そこで都留高校にはたくさんの魅力があると気づきました。それらを全校のみなさんに伝えたく立候補しました。

2、新型コロナウィルスが流行している今だからこそ学校生活をいきいきと過ごすのは大切なことだと思います。私は全校生徒で協力しながら都留高校を生徒一人一人が楽しく明るく過ごせる学校にしたいです。

3、この度、立候補できたことを光栄に思っています。（これからも）都留高校を良い学校にするために全力を尽くしますの応援よろしくお願いします。

◇副会長候補

井上銀河さん（2年3組）

1、私は1年次の時から現生徒会副会長の姿を見ていて、学園祭や体育祭の運営をとりまとめ、全校生徒に指示を出す姿に憧れを覚え、私も全校の皆さんを生徒会副会長という立場からサポートしたいと思い立候補しました。

2、私は先代から受け継がれた都留高校の伝統に誇りを持っていて、特に応援練習や学園祭などは都留高校の良いところだと思っています。しかし、現在コロナウイルスによって、その伝統の灯火が小さくなっていることが問題として挙げられます。なので感染対策の徹底と可能な範囲内での伝統的活動の継続を目標に、生徒一人ひとりが伝統を大切にする高校を創りあげていきたいと思います。

3、全校の皆さん、こんにちは。この度、生徒会副会長に立候補した井上銀河です。突然ですが、皆さんは今の生活に満足していますか？大半の人がコロナウイルスの影響によって満足のいく生活が送れていないと考えられます。私は全校生徒の皆さんが少しでも充実した学校生活を送れるように感染対策を徹底し、生徒会主体の活動の活性化を目標に努めていきたいと思っています。皆様の応援のほど、よろしくお願いします。

山室美緒さん（2年1組）

1、この二年間生徒会を通して、自分に自信がつき、この学校に貢献したいと思ったからです。

2、学園祭や体育祭などの行事の時に、一人ひとりが協力して活動を行うことです。私は、この都留高校を、全校一人ひとりが学校生活を苦に思わない、楽しく気持ち良く過ごせるような所にしていきたいです。

3、全力を尽くしていくことを約束します。ぜひ、私についてきてください。よろしくお願いします。

今、注目の人

生徒会長　山口敦也さん

今回は一年間生徒会長を務めてこられた山口敦也さんにお話を伺いました。

Q1、今年の若鶴祭の感想を教えてください。

やさしく答えてくれた山口生徒会長

A1，今年はコロナ禍での学園祭で、映像やリモートを利用して開催しました。前例がなく、0からのスタートだったので大変でした。また例年とは大きく違った学園祭だったため、正直盛り上がるか不安でしたが動画撮影中の楽しそうな様子を見て安心しました。個人的には山坂先生に「盛り上がってきたね！」と言われたことが一番嬉しかったです。

Q2、学園祭期間の生徒会の活動を教えてください。

A2，クラスからでた意見をまとめて、生徒会内で話し合いをしました。学園祭を開催するかしないかで生徒会内や先生達ともかなり話し合ったことが印象的でしたね。感染症対策をしなければならなかったので、それが難しかったです。

Q3，来年の学園祭についてのコメントと来年の生徒会の皆さんにメッセージをお願いします！

A3，学園祭が来年どうなるかはわからないけど、一番は楽しんでほしいです。今年のコロナのように何があるかわからないので、いろんな事ことを想定して準備することを後輩にはやってほしいと思います。

僕たちは後輩に良い姿を見せることができませんでしたが、卒業するときに「都留高で良かった」と思える学校生活を送ってください。「コツコツが勝つコツ」なので少しずついろんなことと積み上げていけば、何かに勝てたり成功したりすることができると思います。頑張ってください！！

忙しい中、たくさんのことをお話してくださり、ありがとうございました！

自学進取

毎年、夏には新潮文庫の１００冊を読むことにしている。短い夏休みだったが今年も本屋で気に入ったものを買って読んでみた。選んだのはＮＨＫスペシャル取材班『超常現象～科学者たちの挑戦』（新潮社）。単に超常現象ものなら手に取らなかっただろうが、天下のＮＨＫが絡んでいるとなると話は別だ。見出しを見てみると「エピソード４すべての鍵は、人の”意識”」とある。実はこの話は数年前にＮＨＫスペシャルで見てずっと気になっていたものだった。その時はビデオにも録らなかったのでなんとなくの理解で終わったがようやくその話の本質にありつけた、そんな心境だった。このエピソードを端的に記すと、人の意識が集まると本来五分五分になるはずの乱数発生器に影響を与えるということだ。つまり人の意識がなんらかの見えないエネルギーを発生させているといったところだろうか。もちろんそれだけの結果では怪しいと思う人もいるだろう。しかし、もし人の願いがエネルギーとなるのであれば、どうか早くコロナを収束させてほしいと願わざるをえない。（木）

都留高オープンスクールに来た中学生に聞きました

８月29日（土曜日）、都留高校オープンスクールが例年とは違う形で行われた。

今回のオープンスクールはどうだったか、新聞同好会に見学に来た中学生にインタビューしてみた。

―こんにちは。まず、どこの中学校から来たのか、教えてください。

「猿橋中学校です。」

―今日、オープンスクールに来てみてどうでしたか？

「高校生活がとても楽しそうだなって思いました。学園祭のムービーが面白かったです。」

―入ってみたい部活はありましたか？

「軽音部・・？ですかね。楽しそうでした。」

―有難うございました。

続いて、もう一組。

―どこの中学校からきましたか？

「上野原西中学校から来ました。」

―今日、どうでしたか？

「広いなあって思いました。歴史が感じられました。」

―入りたいなって思った部活はありましたか？

「今入っている部活は運動部なのですが、疲れたので文化部に入りたいです。」

新聞の展示を見にきてくれた中学生

高校生活が楽しそうだと答えてくれた中学生。来年の入学を楽しみに待っていたい。

オンライン「若鶴祭」（学園祭）開催

7月31日（金曜日）の午前中、都留高校の学園祭である若鶴祭がオンラインで実施された。

今年はそもそもコロナ禍の中、実施できるかどうか危ぶまれたが、校長先生をはじめとする先生方や若鶴祭を後押しする生徒会や生徒のみなさんのおかげで想像以上のものを実施することができた。また若鶴祭のダイジェスト版はホームページより見ることができる。

結果は以下の通り。

クラスTシャツ1年次1位　4組
クラスTシャツ2年次1位　3組
クラスTシャツ3年次1位　3組
動画コンクール
1位　Aブロック
2位　Eブロック
3位　Fブロック
総合結果
1位Aブロック
2位BAブロック
3位Cブロック
（つるスポの結果は次号で）

夏休み期間に「コロナ禍における教育の変化とは」をテーマにした山梨日日新聞社主催のオンラインでのディスカッションに参加した。

県内の高校生達と主に「コロナ禍における教育の変化」について山梨県立大学の橋本教授や振り付け師として活動する井上うぽるさんを交えて意見を出し合った。最も意見が出されたことは「学校に行く意味とは何か」ということだ。

「前例のない長期休校でリモート授業が増え、学校に行かない生活。家の中にずっといるのだから学習時間は個人によって異なってくるため、学力格差が生じたと思っている人も多いのではないだろうか。」という意見が高校生から出るなか、橋本教授から「コロナがなくても学力格差という問題は生じていて、それが露見しただけではないか。そして学校とはそもそも何だろう。」という問いかけがあった。この問いかけに井上さんは「私の考える学校は、必要な人には必要でも必要じゃない人には必要じゃないもの。」と自身の不登校を経験し、サイバー大を卒業した経験を踏まえて意見を述べた。

コロナ禍における教育の変化とは

新聞同好会　小泉美乃里

私は学校が小さい社会のようなもので人との関わり方を学べる身近な手段としてあると考えていた。しかし井上さんの話を聞いて、リモート授業が普及したいま、学校に行かなくても授業は受けられるし、人との関わり方は学校でなくても学ぶことができる。結局、その場ではっきりとした意見は考えられなかったが、新しい考えに触れることで自分の視野が広がったと思った。

ほとんどの人が当たり前のように高校に入学し、大学に進学していくいまの時代。進学していることが「普通」となった社会が作られているように感じる。「周りが高校、大学に進学するから自分も行こう」と考えている人もいるのではないだろうか。

しかし、それでは自分の人生を無駄にしている気がした。井上さんのように学校に行かなくても、勉強をして好きなことを仕事にしている人もいる。だからこそ10年後、20年後にどんな自分でいたいのか、何をしていたいのかということをしっかり考えてこれからの進路を考えていかなければならないと思った。コロナ禍で様々なことが大きく変化しているいまだからこそ、自分のこれからを見つめ直す良い機会になるのではないだろうか。

古民家麺処「かつら」

大月駅にある古民家麺処「かつら」さんにお話を伺いました。

Q1，どんなお客さんが来店しますか？

A1，平日の昼は出張に来たサラリーマンや近くの会社に勤めている人、商店街に来た人が多いです。土日は観光客やハイキングに来た人、ゴルフをする人が多く来店しますね。

Q2，人気のメニューは何ですか。

A2，やっぱりうちはラーメン屋なのでラーメンが人気です。でも大月以外のお客さんは大月にちなんだものを注文するので、餅入りの大月餃子やおつけ団子も人気です。

Q3，新メニューを作るときの工夫はありますか？

A3，どこのお店もそうだと思いますが、やっぱり美味しくて面白みもあり、長続きするものを考えます。それが難しいのですが・・・。うちの店は大月以外のお客さんが3分の2以上を占めているので、そのお客さんに合うメニューを考えるのも大変です。日々、皆さんに喜ばれるものを試行錯誤しています。

Q4，お店を始めたきっかけを教えてください。

A4，先代の具合が悪くなったので、後を継ぎました。「かつら」になってからは55年くらいですかね。だんだん客層も変化し、大月に買い物に来た人や織物を売るために来たはた屋さんが昔はよく来ていましたが、この何年かは東京や外国からのお客さんが多くなっています。

店内にいた東京から来たお客さんにお話を伺ったところ、富士吉田でサイクリングをする前に大月へ立寄ったそうで、やはり東京からのお客さんが多いようです。コロナウイルスの流行が収まったら外国からのお客さんも増えてほしいと思います！丁寧に答えてくださった「かつら」さん、ありがとうございました！

皆さんもぜひ、学校の帰りに足を運んでみては？

かつら」への想いを語ってくれた店主さん

「かつら」の店がまえ